

## 中川の気風

中川は古い街なので「おはなし」が多い。立派なお寺や史跡はもちろん、家の裏山や普段歩いている道、果てはその辺の石ころまで、いわく因縁があったりする。

鎌倉時代、鎌倉八幡宮に寄進した供米田。領家の島田三郎が、蒙古襲来の際九州に帰国する際、薬師像を彫り込んだ印子の鏡を三嶋神社に納めた。江戸期には彦坂小刑部元正や黒田、太田越前守宗真の陣屋があった。西林寺の近隣には徳川家康の愛妾「お万の方」の生家があった。

岡津全域の鎮守さまで天文5年創建と伝えられる三嶋神社は天正18年、現在の岡津小学校の地に陣屋を築いた代官彦坂小刑部元成をはじめその後の岡津村の領主が守護神として三嶋神社を信仰した。

地域に歴史があるということは地域の財産であることに間違いない。戦火に遭った小学校や国のために没した方々をまつる忠魂碑や地域の安全や旅人の安全を祈った道祖神や地蔵が地域のまもりとして残っているのも地域の「だから」といえる。

明治びとの教育を大切にす思いや中川の気風がすさまじい開発にも生かされ学校を中心にしたまちづくりが行われ、学校が地域の核になり、泉区屈指の緑深い住環境が整い新旧の住民が仲よく1つのコミュニティをつくっています。

お祭り好きで、子どもたちへの声かけ活動を続けるなど子どもは地域の「だから」として優しく、温かく見守り、すんでいる地域の住民一人ひとりが「水と緑と人情のまち」を作り上げています。これからも・・・。